

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

開催日時	令和4年7月20日（水）午後2時～午後3時
開催場所	3階庁議室
出席者	<p>森吉副市長、吉田副市長、小川教育長 小泉参与、山本危機管理部長、山崎市長公室長、前田総務部長、立花環境産業部長、逢野福祉部次長（福祉部長代理）、森市民室長（市民生活部長代理）、藤原健康づくり推進室長（子育て健康部長代理）、藤原建築住宅室長（都市デザイン部長代理）、池辺下水道整備課長（上下水道部長代理）、岡田理事（消防長代理）、並木教育・こども部長、辻生涯学習部長</p> <p>【事務局】 （政策企画室） 東政策企画室長、西川政策・資産マネジメント担当課長、田嶋総括主幹、中津主事 （財政課） 古川総務部次長兼財政課長、船津財政課長補佐 （人事課） 奥人事課長</p>
欠席者	堂ノ上福祉部長、森市民生活部長、岩井子育て健康部長、八木都市デザイン部長、森下上下水道部長、藤原消防長
会議の議題	（1）和泉創発プランの改訂について （2）和泉創発プラン進行管理要綱の一部改正について
会議の要旨	（1）和泉創発プランの改訂について 和泉創発プラン改訂（素案）の大きな方向性が決定し、引き続き、庁内調整の上、次回進行管理会議で審議することとした。 （2）和泉創発プラン進行管理要綱の一部改正について 令和4年4月1日付けの機構改革に伴い、進行管理会議の構成員に危機管理部長を追加する旨の要綱の一部改正を報告した。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録

会議内容（発信者、発信内容、経過、結論等）	
事務局	<p>令和4年度第1回和泉創発プラン進行管理会議を開催する。</p> <p>議事に入る前に、次第2.「その他」として、和泉創発プラン進行管理要綱の一部改正について報告する。本要綱は和泉創発プランの適切な進行管理を行うことを目的とし、令和4年4月1日付けの機構改革に伴い、危機管理部が設置されたことから、進行管理会議の構成員に危機管理部長を追加するため、令和4年4月8日付けで要綱の一部改正を行ったものである。</p> <p>続いて、議事に入らせていただくが、和泉創発プラン進行管理要綱第2条第2項の規定により、進行は森吉副市長に願う。</p>

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

森吉副市長	<p>次第に従って、議事を進める。</p> <p>次第1. 議事(1)「和泉創発プランの改訂について」事務局より説明願う。</p>
政策企画室 財政課	<p>資料番号1「和泉創発プランの改訂について」及び資料番号2「和泉創発プラン(素案)」について「まちづくりの取組」及び「公共施設マネジメントの主な取組」については、政策企画室が、「財政健全化の取組」については財政課が説明する。</p> <p>なお、「頑張る職員が報われる制度・働き方改革の取組」及び「財政収支見通し」については、現在調整中であるため、令和4年8月29日に開催予定の第2回和泉創発プラン進行管理会議において、これらを示した上で、改訂(素案)の最終案を審議いただく予定である。</p> <p>また、和泉創発プラン改訂(素案)については、令和4年第3回定例会の3常任委員会協議会にて報告を予定しているため、改訂に関する課長級以上の職員については、各常任委員会への出席及び事前準備を願う。</p>
山本危機管理部長	<p>プランへの位置づけ基準として、(1)経常的に費用を要する単年度事業費が5,000万円以上となる事業、(2)総事業費が10億円以上となる普通建設事業との説明があった一方で、現プランの中には、多額の事業費を要しない事業も位置づけられている。それらの考え方について伺う。</p>
政策企画室	<p>プランへの位置づけ基準については、資料番号1 2ページ「まちづくり項目の記載要件」の「(3)和泉創発プランの計画期間を含む中・長期の財政収支見通しに大きな影響が想定される事業」を判断するための1つの目安としている。</p> <p>その他のまちづくり項目の記載要件を満たし、「共生のまちづくり」に資する事業であれば、多額の事業費を要しない事業であってもまちづくり項目に記載する場合があるので、金額のみで判断するものではない。</p>
吉田副市長	<p>例えば、4,000万円/年の費用を要するソフト事業がある場合は、プランに新たに反映されないと思うが、これらが積み重なって財政収支見通しに大きな影響がある場合はプランに含めることも検討するのか。</p>
政策企画室	<p>原則としては、まちづくり項目の4つの記載要件のいずれかを満たし、「共生のまちづくり」に資する事業をまちづくり項目に記載するものであるため、プランへの掲載の有無を金額だけで判断するものではない。その上で、財政収支に大きな影響がある事業費の目安として単年度の経常経費5,000万円以上、総事業費10億円以上の普通建設事業という目安を設定しているが、この目安以下の事業費であったとしても財政収支見通しに大きな影響がある場合、必要に応じてプランへの位置づけをする等、柔軟な対応となる。</p>

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

並木教育・こども 部長	<p>和泉創発プランについては、市の基本的な施策に関する計画であるため、市民の意見を考慮して、意思決定を行う必要がある。事務局の説明では、今後の予定として10月から11月頃のタウンミーティング及びパブリックコメントの実施を検討しているとのことであったが、どのような形で実施を検討しているのか。</p>
政策企画室	<p>パブリックコメントについては、和泉市パブリックコメント手続実施要領に基づき、手続を進める。併せて、市長とのタウンミーティングも実施し、和泉創発プランの中間年度でもある現時点でのプランの進捗状況や新たな取組事業を説明することで、和泉創発プランに対する市民の関心を高め、理解を深めたいと考えている。</p> <p>なお、市民にお示しする資料については、文字を中心とした資料構成ではなく、少しでも関心を高めてもらえるよう写真等を中心とした視覚的に捉えることができる資料構成にしたいと考えている。</p>
辻生涯学習部長	<p>プランの改訂に向けて、新たな事業をまちづくりの取組及び財政収支見通しに反映するとの説明であったが、財政収支見通しに反映するという意味は予算を担保するということか。</p>
財政課	<p>今後の財政状況を見通す中で、収支の積み上げに含めるということなので、予算を担保するものではなく、事業実施の必要性や規模等については、詳細な制度設計を確認した上で、予算編成過程の中で整理していくものである。</p>
森吉副市長	<p>今後の様々な事業の取組の方向性を合わせるためのもので、予算を担保するという意味ではないため、注意が必要である。</p>
辻生涯学習部長	<p>資料番号2 22ページ(2)財政健全化の取組①歳入における取組「1. ガバメント・クラウド・ファンディングの導入」について、生涯学習部では久保惣記念美術館の茶室の改修等、既にガバメント・クラウド・ファンディングを活用して事業に取り組んでいる。事業を推進する上での財源確保の方法の一つとして、ガバメント・クラウド・ファンディングを全庁的により促進する必要がある。</p>
財政課	<p>ガバメント・クラウド・ファンディングについては、今後財源確保の一つの方法として、より促進する必要があるものと認識しており、各部においては積極的な制度の活用をお願いする。</p>
吉田副市長	<p>資料番号1 6ページに令和12年度末までの影響額として、市長公約事業とその他事業を合わせて約100億円程度の事業費が追加との記載があるが、これだけの表現であると財源に目途がついたものとして市民や市議会に認識される心配があ</p>

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

<p style="text-align: center;">財政課</p>	<p>るが、収支見通しの状況を確認したい。</p> <p>令和3年度決算見込ベースの収支見通しについては現在作成中であり、8月29日に開催する第2回和泉創発プラン進行管理会議で示すこととなるが、現時点では計上できていない経費もあるので、その結果次第では、現在整理している市長公約事業やその他事業の事業費を見直す必要が生じる可能性があるため、ご留意いただきたい。</p>
<p style="text-align: center;">森吉副市長</p>	<p>市長公約事業やその他事業を見直す可能性は現時点でどの程度あるのか。</p>
<p style="text-align: center;">財政課</p>	<p>令和2年度決算見込ベースを用いた仮試算では、令和13年度末で基金残高30億円を確保する見通しであるが、現時点で計上できていない経費もあるため、これらを計上すると、30億円を下回る可能性は十分にある。この場合は、新たに計上する事業の中での優先順位付けをする必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">立花環境産業部長</p>	<p>現時点での改訂（素案）には、一部未確定の事業も含まれている。例えば、資料番号2 23ページ ②歳出における取組に記載のある「18. 産業振興プラザ北館の譲渡」は現時点で市の方針が確定したのではなく、今後8月上旬に開催予定の政策調整委員会の中で庁内調整を図るものであるが、仮に市の方針を確定できなかった場合の改訂（素案）の対応はどのように考えるか。</p>
<p style="text-align: center;">財政課</p>	<p>現時点での改訂（素案）は、最終案ではなく、8月29日に予定している第2回和泉創発プラン進行管理会議において確定するため、この間に市の方針が定まらなければ、改訂（素案）から項目を削除することになる。</p>
<p style="text-align: center;">藤原健康づくり推進室長</p>	<p>改訂（素案）の最終案については、第2回和泉創発プラン進行管理会議において、確定するとのことであるが、本日の会議録及び会議資料の取扱はどのようになるのか？</p>
<p style="text-align: center;">政策企画室</p>	<p>令和4年4月1日から和泉市庁内会議における会議録等公表基準に基づき、本日の会議録及び会議資料は市ホームページにおいて公表するものとなるが、意思形成過程に関する情報を現時点で公表することにより、後の意思形成に支障が生じるおそれがあるため、第3回市議会定例会後の公表を予定している。</p>
<p style="text-align: center;">小泉参与</p>	<p>資料番号2 25ページ「33. 人権文化センター事業（にじのとしょかん等）の見直し」の取組内容について、具体的に、にじのとしょかんについては廃止が決定しているが、「にじのとしょかんを廃止」という表現になっていないため、表記の見直しが必要である。</p>

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

森吉副市長	<p>にじのとしょかんの廃止は明確に打ち出すべきである。</p> <p>人権文化センターの資料室など一部機能は多世代交流拠点施設へ移管されるが、近隣に北部リージョンセンターもあるため、図書館機能は十分賄えている。</p> <p>確認であるが、人権文化センター及び青少年センターは多世代交流拠点に機能集約、にじのとしょかんは廃止の認識で、各施設の所管部である総務部及び生涯学習部は問題ないか。</p>
前田総務部長 辻生涯学習部長	問題ない。
財政課	担当課と調整して、記載内容を検討する。
森吉副市長	事務局から説明があったように、和泉創発プラン改訂（素案）について、第3回市議会定例会3常任委員会協議会での報告を予定しているため、各部においてはその心づもりでしっかりと準備等に取り組むよう願う。
吉田副市長	富秋中学校区等まちづくり構想等の長期のまちづくり計画等、令和13年度以降に多額の支出が想定される事業もあるが、本市の根幹となる財政収支における目標は、あくまでも決算時点から10年後である令和13年度末に基金残高を30億円確保することを前提として、これ以降は収支均衡を図るということか。
財政課	本プランにおける目標は最新の決算時点から10年後までの各年度末の基金残高を30億円確保することであり、以降については年度によって若干凸凹は生じるものの平均して収支均衡を図る必要がある。
吉田副市長	<p>今回の改訂（素案）に掲載することができない課題があれば、課題の見える化をする必要があると考える。</p> <p>現在、基金から一般会計に繰り入れを行いながら、様々なまちづくり事業等を実施しているが、資料番号1 5ページ中の「歳入における取組」について、基金からの繰り入れを明記する必要はないのか。</p>
財政課	プランにおける「歳入における取組」とは、財政健全化の取組として、財源確保することを意味するものであるため、一般会計への基金繰入状況を明記するものではない。なお、基金の取崩し状況については、第2回和泉創発プラン進行管理会議にて示す財政収支見通しで明らかになる。
吉田副市長	決算時点から10年後以降についても、収支均衡を図る必要があるが、基金残高

令和4年度 第1回和泉創発プラン進行管理会議 会議録

	<p>が急激に減少する現状の見通しを鑑みて、収支均衡が図れるとは想像できない。多額の基金を投じて、まちづくりを進めていることを認識するとともに、今後の財政状況を注視するように。</p>
森吉副市長	<p>本市においては、和泉再生プラン、和泉躍進プランと健全な行財政運営を行うことで基金への積み上げを行ってきた。今後のまちづくりにおいても過度に将来負担を残すことのない健全な行財政運営を引き続き進める必要があるため、事務局においてはしっかりとした状況把握に努めるように。</p>
森吉副市長	<p>令和2年4月からスタートした和泉創発プランは、5年の計画期間の折り返しを迎え、コロナ禍の厳しい状況ではあるが、各部においては大きな事業の遅れもなく、着実に取り組んでいる。</p> <p>今回のプラン改訂では、市長公約事業を含めた新たに取り組むべき事業を反映した改訂（素案）を策定し、第3回市議会定例会の3常任委員会協議会に報告予定である。</p> <p>本日の和泉創発プラン進行管理会議では、改訂（素案）の大きな方向性が決まったが、引き続き財政収支を含めた庁内調整を図った上で、しっかりと取り組むように。</p> <p>また、和泉創発プランは、本市にとって注目度の高い、大きな計画であり、市民や市議会に対し、丁寧な説明が必要であるため、職員一丸となって取り組んでいくように。</p> <p>以上で、令和4年度第1回和泉創発プラン進行管理会議を終了する。</p>